

教科	国語	科目(単位数)	論理国語(3)	学年	3	類型	普通科
学習目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>						
期間	単元(学習内容)	評価基準【知識・技能】	評価基準【思考・判断・表現】	評価基準【主体的に学習に取り組む態度】	評価方法		
【1学期】 4月～5月	①新しい視点 「哲学的思考等は何か」(苦野一徳) 【領域：読むこと・話すこと・聞くこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとする。 ・ 文章の構成や展開のしかたについて理解できる。 ・ 情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理できる。	・ 具体例や言い換えに留意しながら内容を正確に把握し、「哲学的思考」の方法について理解を深めることができる。 ・ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握することができる。 ・ 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができる。	・ 粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って「哲学的思考」を理解しようとしている。 ・ 自分の考えと本文の内容とを照らし、粘り強く検証しようとしている。 ・ 積極的に本文中の表現効果について考え、その表現が論理展開にもたらす効果を説明しようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【1学期】 6月～7月	②人間と社会 「コミュニケーションの文化」(平田オリザ) 【領域：読むこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとする。 ・ 文章の構成や展開のしかたについて理解できる。 ・ 情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理することができる。	・ 文章構成や事例をもとに「コミュニケーションの文化」についての筆者の主張を把握することができる。 ・ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握することができる。 ・ 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができる。	・ 日本人のコミュニケーションについての筆者の主張を検証し、そう主張する理由を粘り強く説明しようとしている。 ・ 積極的に筆者の論展開における特長を把握し、自分なりに評価して話し合おうとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【1学期】 7月	③小論文を書く(表現言語活動) 「課題の文章を読んで情報を整理する」 【領域：書くこと】	・ 文や文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて理解できる。 ・ 文章の構成や展開のしかたについて理解できる。	・ 課題文型小論文へ対応することができる。 ・ 課題文の論旨と主題を読み取る方法を実践できる。 ・ 課題文を要約する方法についての理解を深めることができる。 ・ 設定した題材について、仮説を立てて考察した内容を意見文にまとめることができる。	・ 課題文の論展開と筆者の主張を粘り強く読み取ろうとしている。 ・ 積極的に課題文の要約の方法を理解し、要約文を作成しようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【2学期】 9月～10月	④生活と自然(読み比べ) 「クマを変えてしまう人間」(千松信也) 「カブトムシから考える里山と物質循環」(大倉茂) 【領域：読むこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとする。 ・ 文章の構成や展開のしかたについて理解できる。 ・ 情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理することができる。	・ 猟師である筆者の体験をもとに語られる、人間の活動と自然との関係について理解を深めることができる。 ・ 関連するテーマの文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめることができる。	・ 本文を踏まえて人間と野生動物の関係のあり方について考えを深め、人間ができることについて積極的に話し合おうとしている。 ・ 積極的に本文中の表現について考え、その表現が文章全体にもたらす効果を説明しようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
	⑤小論文を書く(表現言語活動) 「得られた情報を分析して自分の考えを決める」 【領域：書くこと】	・ 文や文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて理解できる。 ・ 文章の構成や展開のしかたについて理解できる。	・ 課題文から得た情報と設問の指示とをふまえて、自分の考えを決める方法を理解することができる。 ・ 主張を支える根拠をあげる方法を理解することができる。 ・ 設定した題材について、仮説を立てて考察した内容を意見文にまとめることができる。	・ 課題文の内容を踏まえて、積極的に自分の「立場」(主張)を決めようとしている。 ・ 主張を支える適切な根拠を粘り強く考えようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【2学期】 10月～11月	⑥生への思索 「経験の教えについて」(森本哲郎) 【領域：読むこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとする。 ・ 文章の構成や展開のしかたについて理解できる。 ・ 情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理することができる。	・ 論理的文章の構成の型を知り、「経験の教え」について自分に引き付けて考えを深めることができる。 ・ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握することができる。 ・ 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができる。	・ 本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。 ・ 『イソップ物語』について積極的に調べ、最も印象に残った話とその理由を発表しようとしている。 ・ 本文に登場する「循環論証」について進んでその問題点を調査し、具体例をあげようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
	⑦小論文を書く(表現言語活動) 「構成を考えて小論文を書く」 【領域：書くこと】	・ 文や文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて理解できる。 ・ 文章の構成や展開のしかたについて理解できる。	・ 論理的文章を書くための文章構成のしかたを理解することができる。 ・ 本論部分を充実させることの重要性を理解することができる。 ・ 実際に小論文を書く方法を理解することができる。 ・ 設定した題材について、仮説を立てて考察した内容を意見文にまとめることができる。	・ 教科書の例を参考に、構成や表現の仕方を工夫して、積極的に小論文を書こうとしている。 ・ 論理的文章を書くための効果的な文章構成や論展開の仕方を把握し、積極的に構成に生かそうとしている。 ・ 自身の経験や見聞きした知識をもとに、粘り強く主張の根拠となる内容を考えようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【2学期】 11月～12月	⑧生への思索 「僕らの時代のメディアリテラシー」(森達也) 【領域：読むこと・話すこと・聞くこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとしている。 ・ 文章の構成や展開のしかたについて理解できる。 ・ 情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理することができる。	・ 筆者の主張の要点を理解し、市場原理の主体とメディアとの関係について考えを深めることができる。 ・ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握することができる。 ・ メディアの進化とリテラシーの重要性について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりすることができる。	・ 筆者のメディアについての主張を捉え、その主張の理由を粘り強く説明しようとしている。 ・ 本文を読んで、メディアに対する考えに変化があったかどうかを進んで振り返り、変化を比較しながら文章にまとめようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
	⑨小論文を書く(言語表現活動) 「書いた小論文を評価・分析して修正する」 【領域：書くこと】	・ 文や文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて理解できる。 ・ 文章の構成や展開のしかたについて理解できる。	・ 書き上げた小論文を評価するポイントを理解することができる。 ・ 指摘された修正点をふまえて、実際に小論文を修正できるようになる。 ・ 自分の考えが的確に伝わるように書かれているか、読み手の評価も参考にして文章を吟味し、書き直すことができる。	・ 小論文を評価するポイントを粘り強く理解しようとしている。 ・ 書いた小論文を相互評価し、批評を踏まえて粘り強く修正しようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【3学期】 1月～2月	⑩現代と社会 「支え合うことの意味」(鷲田清和)【領域：読むこと・話すこと・聞くこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 ・ 情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。	・ 抽象的な表現の意味を把握しながら、「支え合うことの意味」について考えを深めることができる。 ・ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握することができる。 ・ 人と人との「支え合い」について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりすることができる。	・ 本文の内容を把握して、筆者の考えを積極的に評価しようとしている。 ・ 本文中の表現について、粘り強くその表現効果によりイメージされる事柄を考え、説明しようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【3学期】 2月～3月	⑪現代と社会 「科学技術は暴走しているのか」(佐倉統)【領域：読むこと・話すこと・聞くこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとする。 ・ 文章の構成や展開のしかたについて理解できる。 ・ 情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理することができる。	・ AIやロボット技術の現状や日本における捉え方をふまえ、科学技術との向き合い方を考えることができる。 ・ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握することができる。 ・ 文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深めることができる。 ・ AIやロボットなどの科学技術について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述することができる。	・ 本文を読んで、科学技術に対する考えに変化があったかどうかを進んで振り返り、変化を比較しながら文章にまとめようとしている。 ・ 積極的に本文に出てくる言葉を用いた短文を作り、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
使用教材(教科書・副教材)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「高等学校 標準 論理国語」(第一学習社)</li> <li>・ 「新訂版 最新国語便覧」(浜島書店)</li> <li>・ 「トリプルアプローチ 字義で覚える常用漢字」(浜島書店)</li> </ul>						
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わからない語句などは辞書を有効に使い、意味調べを行う。</li> <li>・ 作品を読み終えた後は、感想や筆者の主張に対する意見をまとめる。</li> <li>・ 授業では漫然とノートを写すだけではなく、筆者および作者が伝えようとしていることは何か、常に意識しながら読み進める。</li> <li>・ 授業中は先生の話や他の生徒の発言をしっかりと聞き、メモを取ったり自分の意見と比べたりする。</li> <li>・ ノートをきれいに取るのが目標ではなく、復習するときに利用しやすいように書くことを心がける。</li> <li>・ 授業の理解度向上のために「日々の課題」にも着実に取り組む。</li> <li>・ 話し合い活動等の協働学習に積極的に参加し、自分の意見を深める。</li> </ul>						
評価について	<p>各単元で設定された目標に対する観点別評価を行う。評価方法は、授業態度や授業内の協働学習での取組み、小テスト、提出物、定期考査などである。各単元における評価方法は、上記【※評価方法】の通りである。各単元及び各学期における観点別の評価と、学年末における観点別の評価をもとに総合的な評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。</p>						